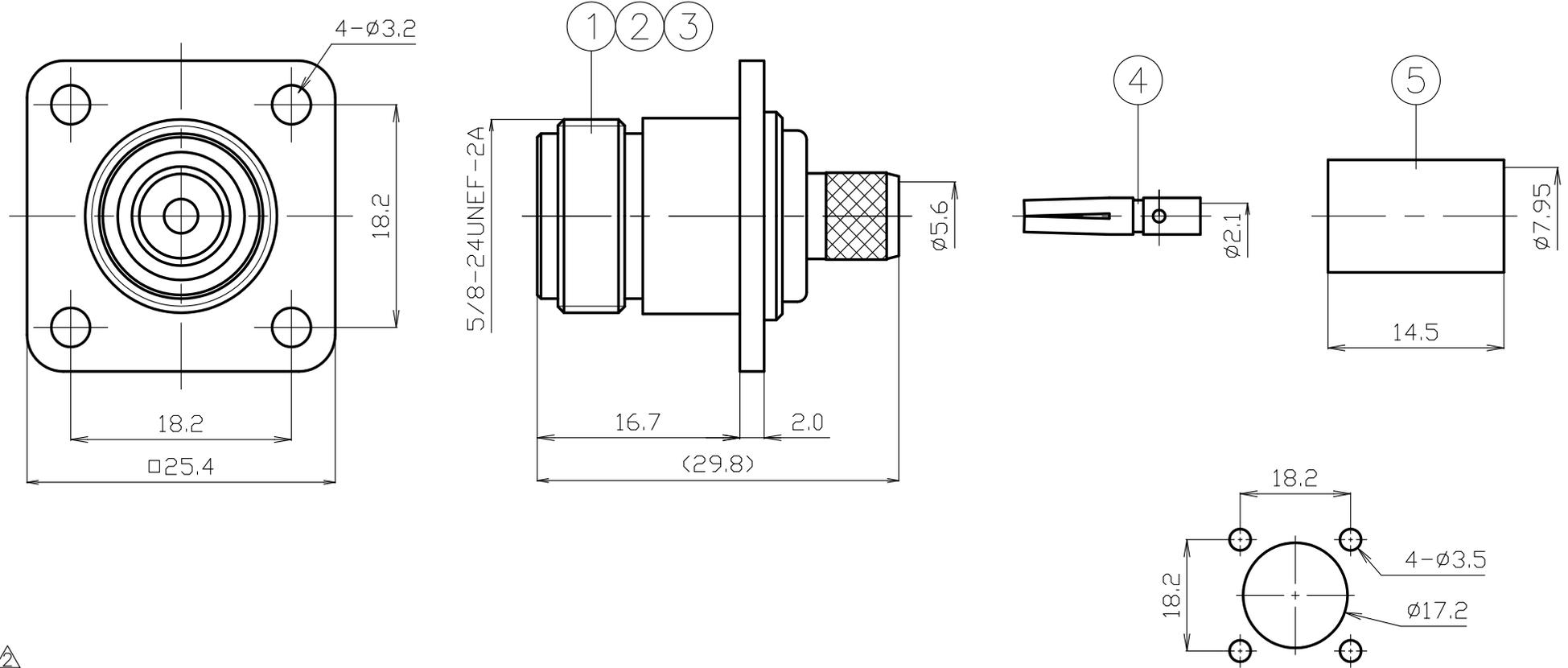


番号	変更・記事	日付	確認
△	社名変更	2012.01.05	済
△	図面外観化、RoHS表記追記	2017.02.06	済
△			



RoHS Compliant [Cd ≤75ppm]	
REMARKS	BRASS: Cd ≤75ppm PHOSPHOR BRONZE: Pb <4wt%

取付穴参考寸法

7	6	5	4	3	2	1	番号	部品名	材質	数量	処理	備考	尺 寸 2/1	製 図 渡 邊 '17.02.06 直 弘	検 査 檜 澤 '17.02.06	承 認 山 本 '17.02.06	確 認 三 村 '17.02.06	品 名 N-PJ-5SFA
		圧着スリーブ	中心コンタクト	ホルダー	絶縁体	シェル			黄銅	1	Ni							
									リン青銅	1	Au							
									黄銅	1	Ni							
									テフロン	1	--							
									黄銅	1	Ni							
													単位					
													mm					
													日付					
													2005.10.11	投影法	◎	▲	Logo	株式会社 トーコネ TO-CONNE CO.,LTD.
																		図番 J-0521913

仕 様 書

品 名 N-PJ-5SFA

No. 0521609

図 番 J-0521913

株式会社トーコネ

定 格 1 参考規格 JIS C 5411
 2 定格電圧 AC 500V
 3 公称インピーダンス 50Ω

確 認	検 印	作 成
		

	項 目	条 件	規 格
1	構造形状	構造及び形状寸法	異常のないこと
2		材 質	
3		仕上げ及び表示	
4	電 氣 的 特 性	絶縁抵抗	1000MΩ 以上
5		耐電圧	AC 1000V 1分間
6		接触抵抗	接触間の電圧降下は、約1kHzの交流又は直流で1mVを越えない方法にて
7			
8	機 械 的 特 性	互換性	規格に準ずるコネクタと結合したとき
9		ケーブル接続強度	軸方向引張力 147N以上
10		結合部接続強度	軸方向引張力300Nを加えたとき
11		雌コンタクトの保持力	規格ピンゲージ0.98N以上
12		取付部強度	引張力500Nを加えたとき
13		繰り返し動作	5000回の抜き差し後
			接触抵抗は10mΩ 以下

GKQM-19-1

	変更履歴	日 付
1		
2		
3		

N-PJ-5SFA 取付仕様書

適合ケーブル 5D-SFA

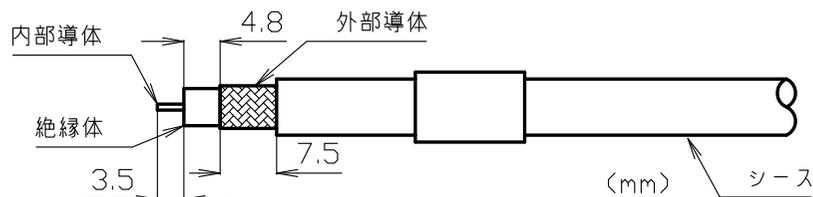
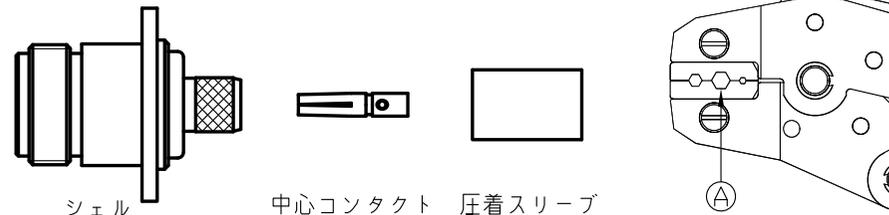
専用圧着工具
TA-35
(本体表示: 53-8242)

図番 J-0521913



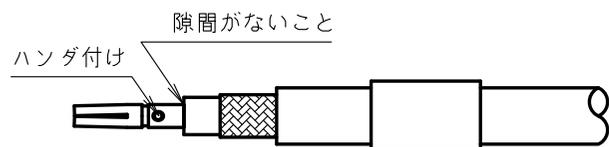
作成	確認
檜 '12,11,29 澤	山 '12,11,29 本

部品構成

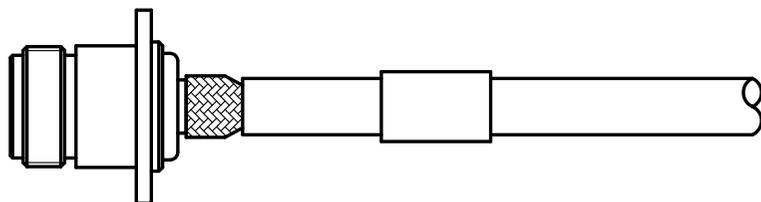


番号	変更・記事	日付
△1	社名変更	2012.01.05
△2	TA-35 ご使用上の注意参照 追記	2012.11.29
△3		

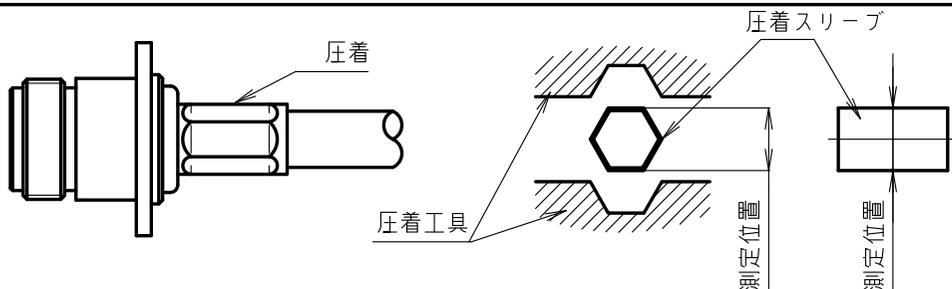
1 同軸ケーブルへ圧着スリーブを通し、シース、絶縁体、外部導体を図中の寸法で切りとる。＊銅箔も外部導体と同寸法で切り取る。



2 内部導体に中心コンタクトを装着し、半田付けする。半田が盛り上がらないよう、絶縁体と中心コンタクトの間に隙間が無いよう注意しながら半田付けを行う。半田付け後、中心コンタクトを軽く引張り、抜けないことを確認する。



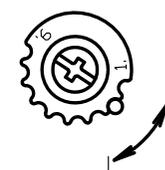
3 シェルを同軸ケーブルと絶縁体と外部導体の間に装着する。(この時プチンと中心コンタクトが定位置に入ったことを確認する。)



4 装着が終わったら、圧着スリーブを図の位置まで上げて圧着工具のA部で圧着して作業を完了する。

この時、図中の位置で寸法を測定し、クリンプ高さにより工具の強度調整用ダイヤルを設定して下さい。

強度調整ダイヤル



測定位置でのクリンプ高さ8.35~8.50mm

◆TA-35をご使用の場合は、別紙「TA-35圧着工具 ご使用上の注意」を必ずお読みください。

TA-35圧着工具 ご使用上の注意

(本体表示：53-8242)



株式会社 **トーコネ**
TO-CONNE CO.,LTD.

作成 確認

山

'12,11,14

本

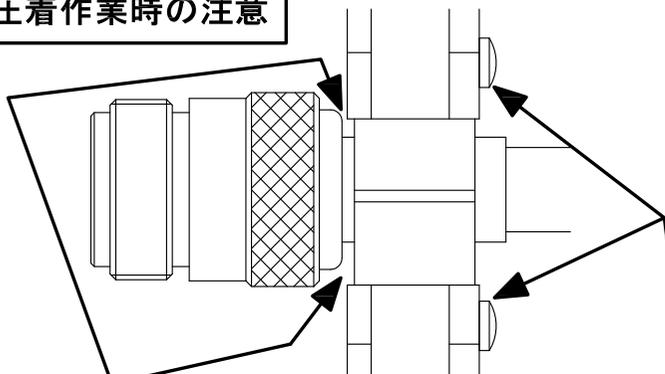
檜

'12,11,14

澤

◆TA-35圧着工具をご使用の際は、下記に注意してご使用ください。
コネクタの形状により、圧着工具の部位が接触しコネクタにキズがつく場合があります。

圧着作業時の注意

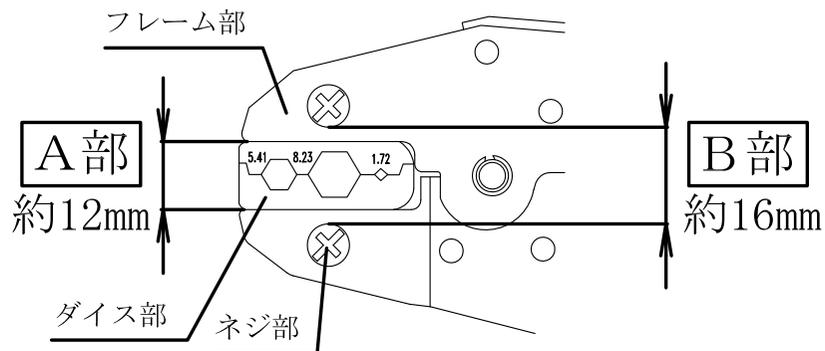


① フレーム部に当たらないように
ダイスとの隙間に注意 **※注1**

② ネジ部に当たらないように注意

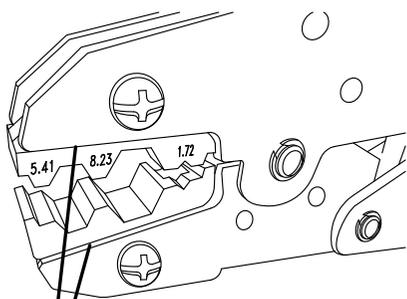
A部

ダイス幅よりもフレーム部の幅が大きく、コネクタの圧着部付近が下記寸法よりも大きいコネクタは接触しないよう注意が必要です。

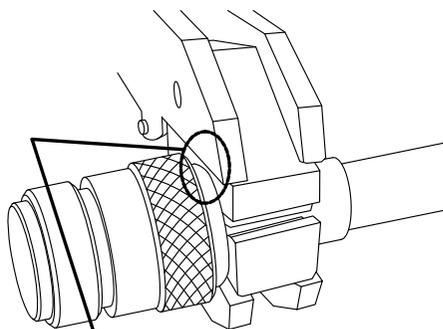


B部

圧着部付近が16mmを超えるコネクタは圧着工具のネジ部が当たらないように、向きを変えて作業してください。



フレーム部は両面共に注意すること



※注1

仕上がり状態で、下記範囲が1.5mm以下になるように作業をおこなってください。

